

大橋 熱闘再現誓う

初防衛戦に気合が入る
大橋 愛知県知多市の
HEIWAジムで

28日 初防衛戦 最強挑戦者迎え撃つ

プロボクシングの東洋太平洋スパーバントム級王者、大橋弘政(30) 愛知・HEIWAが28日、名古屋国際会議場でWBC同級7位の下田昭文(25) 帝拳と初防衛戦を行う。かつて同級の日本タイトルを3度防衛したこともある「最強挑戦者」に、タイトル奪取の決め手になった不屈の闘志で立ち向かうつもりだ。

奇跡の戴冠から 9カ月準備OK

最強の相手を迎え、大橋の「燃える魂」にガッリンが注入された。「技術もスピードも世界ランキングも向こうがすべて上。ボクは挑戦者のつもりで闘う」。9カ月前に「奇跡」の戴冠をかなえた不屈の闘志は、早くもスタンバイOKだ。

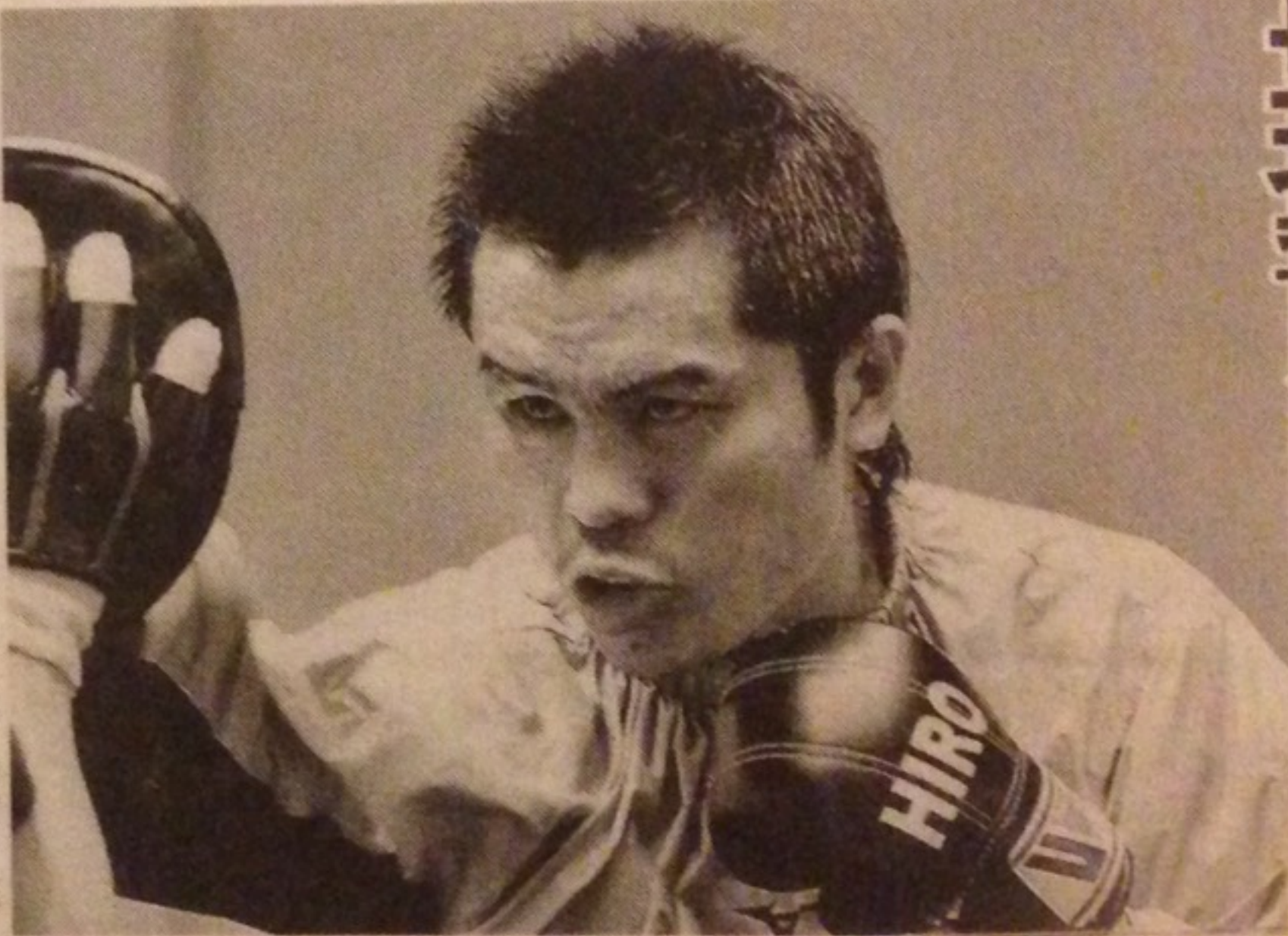
「技術は日本ランカー以下。でも気持ちだけは世界ランカー」と、挑んだ昨年6月のタイトルマッチ。世界挑戦経験もある王者ロリー松下に、初回からダウン寸前に追い込まれながら、打たれても前進をやめず7回逆転勝ち。当時ランク10

位にも入っていない大橋が起こした番狂わせは、名古屋のファンを興奮の渦に巻き込んだ。

代償は大きく顔面を数カ所骨折。初防衛戦まで9カ月のブランクが空き、ただでさえ重圧が懸かる初防衛戦が、最強の相手と対戦する指名試合になった。だが困難な状況にも、地元名古屋で迎える大舞台に、大橋は熱闘の再現を誓う。

試合前に大橋は、勝つための目標を紙に書き付ける。「将来の目標であるジム開設へ、知名度をアップさせるために勝つ」から「勝って中スポに取材してもらおう」まで。そして応援に来てくれる知り合いの名をすべて書き出す。「日本ランク入りする時から始めた」行為が「負けられない」と勇気を与え、以降9連続KO勝ちを継続中だ。

▼大橋弘政(おおはしひろまさ) 1979(昭和54)年12月31日名古屋市中川区生まれの30歳。165センチ。同朋大に在学していた2000年5月にHEIWAジムに入門し、ボクシングを始める。同年11月プロデビュー。



その「勝利の儀式」に、今回は新たな一項目が加わる。「王座を防衛し続けて、子どもをリングに上げたい」。昨年10月に彩恵夫人(30)と結婚。いつか生まれてくる子どもの目に、チャンピオンの父親の姿を焼き付けるのが夢だ。

その彩恵夫人とも2月ユ。昨年6月に東洋太平洋スパーバントム級王座を獲得。同10月に彩恵夫人と結婚。右ストレートが得意の右ボクサーファイター。WBC13位。対戦成績21勝(14KO)8敗3分け。現在9連続KO中。

大のドラフファン 勝って始球式夢

○…大橋が願ってやまないのが、中日ドラゴンズの始球式を務めることだ。実家はかつてのドラの本拠地ナゴヤ球場へ歩いていける距離にあり「よく試合を見に行っていた」。もちろんドラファンで、昨年、日本バントム級王者だった大場浩平が始球式をした時は、心からうらやましがっていた。きっちりチャンピオンを防衛して、ナゴヤドームのマウンドに立つ夢を実現したいところだ。